

ゲストスピーカー 白石実希（知多市役所企画情報課）

(1) 自己紹介

市役所入庁1年目、所属は知多市企画情報課。関心は教育や若い人。好きなことは自分の世界観で想像すること。これまでの人生を振り返り、衝撃を受けたコト。高校の倫理の最初の授業で先生が「例えば妹が病気になった男性がいた。とても貧しく、薬を盗んでしまった。あなたはその人を許せますか？」と尋ねられた。そして「自分の考えに哲学者などや他者の意見を取り入れることで自分の考えを深化させてほしい」と言われた。

大学では政治経済の最後の授業で先生から「これからみんなは社会のルールの中で人生というゲームをやっていかなければいけない。全員が勝者になれない、なぜか？ルール自体がおかしいときもある。ルールを変えていく事も大切だ」

大好きなアニメの中のコトバを引用すると、「ルールは人を守るものではなく、社会を動かすためにある！」つまり、人のためのルールではないから、みんなに優しいわけではない。ルールが間違っているというコトを考えていかないといけないと感じた。

社会やNPOに興味を持ったきっかけは、授業の一環でインターンシップはNPO法人こどもNPOを選択。ボール遊びもできない公園が増えてきた名古屋だが、プレーパークでは火遊びやのこぎりを使うなど、子どもたちは遊びを通して学ぶ。

子どもの権利条約の勉強で、高学年は自分の考えをディスカッションし、低学年は「子は親から離されない」という権利条約を自分たちの解釈で絵を描きオリジナルかるたを作り遊んだ。世界の子どもたちについて考えることで、自分についての認識を促す。

生活保護世帯の子どもを対象にした無料塾では、学校に行きたいのに行けない子たちが居場所として通う無料塾。この中で人と仲良くなり方を経験したことで学校に行けたこともある。ひとりひとりに対しての個人に合った対応。学校ではできないからこそ、こういう存在が大切。

ビッグイシュー（※）については大学の授業の中で知り共感した。知らなかったら何の変哲もない雑誌。知らないって、もったいないと思った。

(※) ビッグイシュー (The Big Issue)

ホームレスの社会復帰に貢献することを目指すとする企業であり、またイギリスを発祥に世界で販売されるストリート新聞のこと。1991年にロンドンで生まれ、日本では2003年9月に創刊。

ホームレスの人の救済（チャリティ）ではなく、仕事を提供し自立を応援する事業。

知多市役所を選んだ理由は、好きな地元で何かをやりたいと思ったが、知らないことがたくさんあるので関わってみたいと思った。「NPO やソーシャルビジネスに関心のある人

が行政側にいる事は大きな意味がある。私はここにいるべきだ！」と市役所を選んだ。

世論調査「社会に対して満足していない点」結果から、社会の現状について個人的にすべてを国や政府が解決することが難しい。行政がやるべきことは全てに対応するという事ではなく誰かの背中を押すことだと考える。

(2) 知多市の課題

「参加する人」「参加しない人」ははっきり分かれている感じ。いつも同じメンバーで会議に参加している。若い人がいるのに見えてこない。子ども会の加入率が低下しているが必要としている人もいる。そのニーズに対応できるよう、在り方を変えていかないといけない。

市内交通アクセスは、東部住民なのでコミュニティバス路線、電車も不便。解決するにはレンタサイクル、オンデマンドバスとか、新しい取り組みがあればいい。

人口は現在 84 千人、2060 年には 64 千人になる。2 万人とは、八幡とつつじの住民全員とほぼ同規模。人口減に対応する対応として今必要なものは何かを考え、年齢の枠を超えた交流の場を作り、全体のつながりや絆づくりが必要になってくる。

(3) 第 5 次知多市総合計画（平成 23 年度～平成 32 年度）

これからは行政だけでなく市民、コミュニティ、NPO、企業と共に知多市のあるべき姿を創りあう。個人的に考える理想的な社会は、多様化した幸せのカタチとして例えば、結婚を選択しない人に対して政府が障害になってはいけない。

私が考える理想の社会

SNS のように薄くて広いつながり（ウィークタイズ）を増やしていくと、必然的に自分を発信することになり、自分を見つめ直す良いきっかけになる。待ってないで自分から行動していかないと、思った通りにはならない。そういう人が増えると自分の考えを持ち、自信をもって行動できる。また、民間経験のある教師が実社会を伝える必要がある。花屋やパン屋だけでなく水族館、自転車修理業、スマホゲーム制作という存在も知るキャリア教育は、将来の自己選択の幅を広げることになり未来を明るくする。

(4) できること

何かを変えることは大きな力が必要でたくさんの人数も必要なので大変なことだが、日々、小さなことから自分の考えで行動していると、大きな壁にぶち当たった時も自分に納得した答えを出して行動できると思う。自分の考えだけでなく他人の考えを知ることによって自分の考えに深みが出る、自分に納得した答えが出せる。うすくても広い人間関係を持つことで「知っている」ことが多くなり、自分の身近なこととして捉えられる。自分の声で、自分の考えを行動にして言葉で表すことを習慣づけることが大切。